

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第5週（2月1日～2月7日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、3密の回避が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 再び増加」

第5週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,013例であり、前週比1.2%減であった。前年同週比では53.0%減（2020年 第5週2,155例）であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.31、0.49、0.46、0.40、0.27であった。

感染性胃腸炎は前週比7%減の649例で、中河内4.90、大阪市南部4.65、南河内4.19、泉州4.00、北河内3.81である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比3%増の97例で、泉州1.10、南河内0.88、中河内0.85であった。

RSウイルス感染症は前週比44%増の91例で、大阪市北部2.14、中河内1.10、大阪市東部0.87である。

咽頭結膜熱は前週比11%増の52例で、泉州0.50、大阪市東部0.47、大阪市北部0.36であった。

インフルエンザは3例で、定点あたり報告数は0.01であり、昨年同週（2020年 第5週 5,065例）に比して著減した状態が続いている。

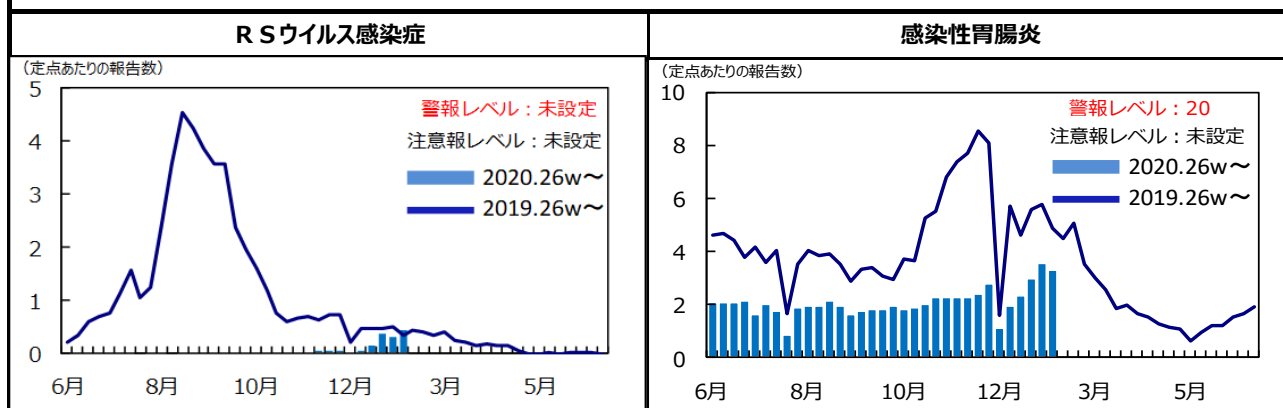


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第5週2月1日～2月7日）

第5週の 順位	第4週の 順位	感染症	2021年 第5週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第5週の 定点あたり 報告数	2021年第5週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.31	7%減	5.74	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	3%増	3.16	4歳_20%
3	4	RSウイルス感染症	0.46	44%増	0.49	1歳_45%
4	3	突発性発しん	0.40	5%増	0.31	1歳_49%
5	5	咽頭結膜熱	0.27	11%増	0.41	1歳_42%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	増減なし	16.88	1歳_10-14歳_15-19歳 _33%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2020年第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第5週のコメント

～E型肝炎～ 大阪府では、2018年以降毎年5～10名の報告があります

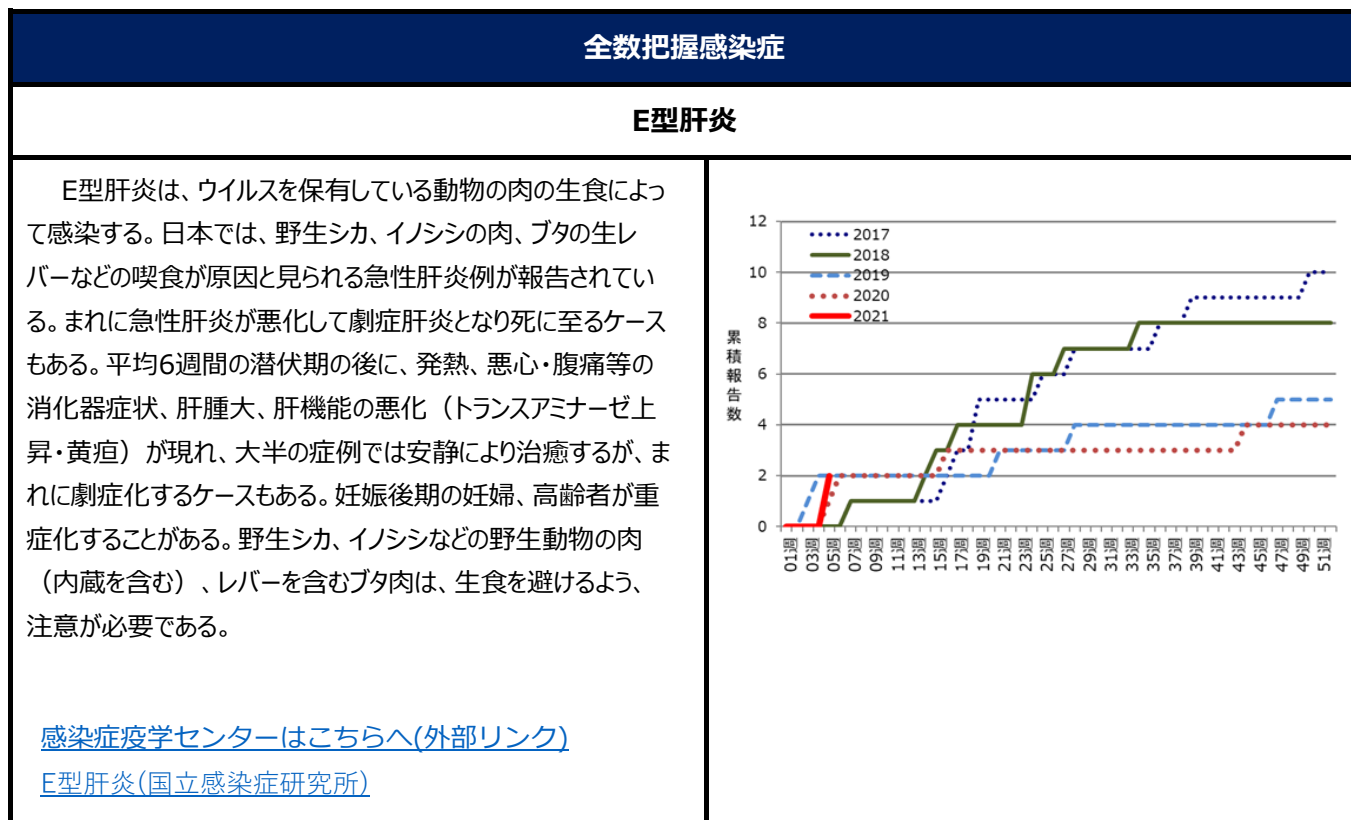


表 2. 大阪府全数報告数（2021年 第5週2月1日～2月7日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報 告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2								2	10
4 類感染症	E 型肝炎	2	1			1					2
	レジオネラ症（肺炎型）	2								2	7
5 類感染症	アメーバ赤痢	3	1				1			1	5
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3							1	2	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	4
	後天性免疫不全症候群	2								2	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		4
	梅毒	7	1		1	1				4	55
	播種性クリプトコックス症	1	1								1
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	1,354	2020年1月以降 累計 45,076								
結核 (2020年12月分)	結核 新登録患者数：114名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 39名) (府内累積報告数 1,416名、内 肺・喀痰塗抹陽性 543名)										

(2021年2月9日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)